

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊橋市立牟呂小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
所在地 〒 441-8068  
愛知県豊橋市牟呂中村町1番地の4  
E-mail muro-e@toyohashi.ed.jp  
Website http://www.muro-e.toyohashi.ed.jp  
幼児児童生徒数 男子 403名 女子 323名 合計 726名  
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「生き方教育」を研究テーマとし、ESDと生き方教育(キャリア養育)の育成を関連付けながら基礎的・汎用的能力の育成を目標とした。

具体的には、①地域と関わる活動、②地域に学び、自ら考える学習を行った。

### ①地域と関わる活動

本校区では、地域が主導して校区合同防災訓練を毎年実施している。本年度も、小学校を会場として地域の方たちと防災訓練を行った。

防災サイレンの後の避難訓練、学校での消火器訓練や防災グッズづくりを授業で行った。また、運動場には地域から様々なブースを出していただき、体験活動を行った。ブースは小学生だけでなく地域へも開かれ、地域の方にも多くの参加者がいた。

## ②地域に学び、自ら考える活動

防災に関する学習活動として、本年度は6年生が「ぼくらのまちは ぼくらがまもる」として校区の防災マップ作りに取り組んだ。地域の方の案内で校区の様子を見て回り、市役所の担当者からマップ作りの方法を教わった。学校では、調べた資料をもとに、よりよい避難経路を探す活動を行った。グループに分かれて校区内の危険箇所を調査し、その箇所を地図に記入後、よりよい避難経路を考えた。7月には、地域に向けて危険個所の発表を行った。

地域の方からの助言を受けた後、マップの見直しを実施し、完成に向けてグループ協議を行った。2月に完成したマップは、校区内各家庭に配られた。

① の写真（防災訓練の様子）



② の写真（マップ作りの街歩きと発表会）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

問題解決的な学習を中心に据える本校の教育方針に合わせ、問題解決型の単元構想をつくっている。ESD活動を通して、問題を見つけ、解決する学習を通して、児童の考える力や実践する力を育てている。本年度は6年生の防災マップ作りの他、5年生の福祉体験活動、4年生の地域伝統学習、3年生の飼育栽培活動等、学年に応じて適切な問題をつくったり、地域と協働できる活動を行ったりしてきた。指導方法としては、子どもの自発的な問題発見を促し、解決のための活動を支援することとしている。このESDの学習方法を他教科にも波及させている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で、各学年の学習内容を決め、毎年継続して取り組んでいる。毎年継続することにより、学習のための資料の蓄積や前年度からの発展的な学習が可能となり、毎年新しいテーマをつくって取り組んでいる。校内組織では、学年主任をESD推進委員として位置づけ、各学年の総合的な学習の内容を検討しながらESDとしての学習活動を推進している。市からの補助金の使い方や地域の方と連携することを実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

評価内容として、「『体験』を重視した問題解決的な学習を展開し、自ら考え判断する場を設定し、その成果を評価する」として、校内教職員と学校評議員の評価を受けた。評価内容として、①子どもたちの考える力はまだ十分とはいえないが、着実に伸びていることは確かである。②子どもたちの学習の方向性は明らかになっているので、今後さらに実践を通じた研究を深める必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域に向けた発信として、5年「福祉体験」と6年「防災マップ」で実践した。5年「福祉体験」では、学習したことをまとめたものを学校公開日に合わせて校内掲示し、発表を行った。6年「防災マップ」では、防災マップを地域各家庭に配付することによって学習した成果を発表した。地域からは、学校の教育活動への理解を深めてもらい、家庭や地域で子どもが学習について話をし、つながりが深くなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

3・4年生には地域教育ボランティア、5・6年生には市役所担当課の協力により学習を進められた。5年生は毎年、車いすの講座を出前授業として依頼し、体験活動の指導を行っていただいている。6年生では、市役所防災危機管理課の指導のもと、地域教育ボランティアとの街歩きや、防災マップ作りの講義をしていただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特記事項なし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

教員の側では、外部講師を依頼することにより、外部との折衝力が必要となった。また、専門的な講座を見聞することにより、教員としての資質向上に役立った。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も、本年度と変わらない活動を計画している。各学年のテーマのもと、総合的な学習の時間を中心に実践する予定である。

防災訓練については、校区合同となって4年を経過し、実施方法についても見直しが必要となってきた。防災に関する授業はこれでよいか、地域から出されるブースに児童がどれだけ参加できるかなど、課題が出てきたため、来年度以降検討していこうと考えている。

各学年のESDに関わる総合的な学習は、来年度も継続して行っていく予定である。